

輻

〔源氏物語九〕御車ども立つゝけつれば、人給ひの奥におしやられて、物も見えず、○中榻なども皆おしやられて、すゝろなる。車のとくに打かけたれば、又なう人わろく悔しう、何に來つらんと思ふにかひなし。

〔倭名類聚抄十一〕車具〔輻〕老子經云、古車有三十輻〔音福、和夜〕以象月數也。

〔箋注倭名類聚抄三〕西京賦、輻訓久留万夜、輻之在輪内、猶矢之在彎中、

〔後漢書二十九〕輿服、興方法地、蓋圓象天三十幅、以象日月、鄭玄曰、輪象日月者、以之運行也、日月三十日而合宿、蓋弓二十八以象

列星

〔類聚名義抄三〕木輻櫟〔クルマノヤア〕〔同九〕車輻〔クルマノヤ〕輳〔ヤ

〔和玉篇上〕車輻〔アツマルトム〕車輪〔クルマ〕

〔易林本節用集美財〕車輻〔クルマ〕車輪之中〔有之〕

〔倭訓栞前編三十四〕車輻〔コシキ〕や、輻をよむも和名抄にみゆ、矢より轉せる成べし、

〔延喜式十七〕牛車一具、○中輶、輻料櫻九十七枚、

〔墜囊抄二〕車ノワハ數アル物歟、又其字如何、

老子經曰、三十輻共一轂、當其无有車之用、是ヲ註〔スルニ〕古車ニ三十輻アリ、一月ニ法、一轂ヲ共ニストハ、輻中ニ輻アリ、衆輻共ニ湊ト云リ、是ハ道教心虚无自然道ヲ談ズル故ニ、轂中虚ニ輪間透テメグル事ヲ得ヲ以テ、除情去欲心ヲ空シカラシメバ、道ニ叶ベキニ喩ヘタリ、注ニ、古ヘニハト云ヲ以テ知、又今ノ車ハ輻ハ減ズルナルベシ、當時車ハ輪木八板アリテ、輻數廿四枚也、輪木一一ニヤ各三ヲサス也、仍三八廿四也、車ヲバ奚仲ト云者始テ作ルト云ヘリ、輻字ヲヤト讀也、但雜車ハ輪七枚有テ、ヤノカズ廿一枚也、

〔太平記二十三〕土岐頼遠參合御幸致狼籍事附雲客下車事